課題名　我が署における森林教室の取組みについて
（より森林に親しんでもらうために）

機関名　留萌南部森林管理署
所　属　古丹別森林事務所 首席森林官　　氏名　畠中寿明
流域管理調整官　　渡邊博司
古丹別森林事務所 係員　　渕上優也

１．課題を取り上げた背景

留萌南部森林管理署では、地域の方々により森林への関心を深めてもらうため、森林環境教育の推進に取組んでいます。森林環境教育の一環として、当署では森林での体験活動が出来る「ふれあいの森」「遊々の森」を設定し、様々な年代の方に応じた森林教室を開催しています。

今回、長年にわたり苫前町との間で取組んでいる「学社融合事業」を中心とした森林教室の実施事例を紹介し、将来を担う小学生が興味を持って参加していただける取組みについて考察していきます。

２．取組みの経過

当署管内に所在する苫前町では平成8年度から「学社融合事業」を推進しており、農業・漁業・社会奉仕体験など多岐にわたった事業を実施しています。

この一環の中で当署でも森林教室の依頼を受け、小学校の子供達が森林に親しみを持ち、森林の機能や暮らしの中で森林の位置づけを学んでもらえるよな授業を行っています。

近年では平成21年度に5回、平成22年度は学習指導要領の改訂もあり2回の森林教室を行いました。

内容は、苫前小学校では「サンケベツ遊々の森」で木の実や落ち葉を使った万華鏡製作・やまぶどうの差し穂作り、古丹別小学校では「サッタルベ遊々の森」で樹木当てクイズやフィールドビンゴを使った森林散策などを実施してきました。

また、苫前町以外でも参加する方にあわせて様々な内容の森林教室を実施してきました。

主に社会人の方が参加した事例として、新星マリン漁業協同組合女性部・コープサッポロ留萌委員会の合同開催で実施した森林教室では、留萌市「チバベリふれあいの森」においてカミネッコンによる植樹を行い、森林の育成について体験をしていただきました。

また雨天の際に取組んだ事例として、小平町教育委員会の依頼を受け実施した森林教室では、屋内で小学生に樹木の説明と固まれば木質状になる粘土を使った小物作りを行い、木の質感を味わっていただきました。

３．実行結果

それぞれの森林教室でも参加者は笑顔のなかで体験してもらいましたが、苫前町の小学生には感想文を書いてもらい、特に印象に残ったものは何かを検証しました。

その結果、視覚に訴える物よりも、実際に触れたり・味見をするような、自分たちで直に触れて体験した内容が強く印象に残る傾向が見られました。

４．考察

小学生を中心とした参加者には、森林の不思議を自分で発見・体験したと実感してもらうことが、森林教室成功の鍵といえます。

学習指導要領が改訂され、総合学習の時間が減少していく中、子供達の興味を如何に引き寄せ、学校関係者や保護者の方々にも「参加させて良かった」と思える森林教室を提供していくかが課題となると考えます。